

V 情報・資料

1 ソ連の新海洋測器

(出所: Soviet Oceanography Transactions of the Marine Hydrophysical Institute, Academy of Sciences of the U.S.S.R. Sixth Voyage of the Mikhail Lomonosov Vol. xxv, 1962)

ミハイル・ロモノゾフ号は1959年大西洋観測に海洋物理研究所で作った新測器を使用しているが、次の3つを紹介する。

- (1) バチサーモサリノグラフ (Bath thermo salinograph) は水深、水温、塩分をこれまでにない高い精度 (水温 0.015°C 、塩分 0.003%) で記録できる測器である。水温、塩分の平均値だけでなく、変りも記録する。海洋の水温及び電導度のオツシログラフの120m記録がとれる。(測器全長写真によると約1.3m)。
- (2) サーミスター・チエインとエレク・ロバチサーモグラフ・チエインは10mおきの10個のサーミスターから成る。サーミスターケーブルの末端に水深を測るピックアップがついて、シグナル転換と配分ユニット、シグナル記録の電位計より成る。このサーミスターチエインは5日周観測点で使用された。
- (3) 海面の水温を船の動く間に記録する2測器を潮境の熱構造や水平の温度不規則性を測定するため開発した。その一つは大きな時間定数及び 0.1°C 程度の低感度で、も一つは小さい 0.1 秒という時間定数で感度 0.03°C である。試作品を英仏海峡からカナリー諸島まで連続的に作動させた。

120m長の記録を得た。

(宇田道隆)

2 新水産調査船 TOWNSEND CROMWELL

1964年1月25日進水した本船はハワイの水産研究所々属、全長138フィート、幅33フィート、吃水下10フィート、総トン数565。400馬力ディーゼル2基、全速13.5ノット、巡航速12.5ノット、航続距離1万マイル。船型は変つていて、船首は丸く管状構造約10フィート長吃水線下前方へ延びている。発明者東京大学乾博士の名をとつてイヌイ・バルブとよぶ、これが船首の造波抵抗をなくし、船の効率を増大する。又横揺防止タンクの一系を